

## 2017 megumi に乗ってびわ湖の中をのぞいてみよう!! ②

2017年度の環境学習船 megumi による小学生親子環境学習2回目の生物系は8月22日(火)に開催されました。テーマはびわ湖の透明度調査とプランクトン観察です。保護者17名、児童21名が参加し、講師、スタッフとともに megumi に乗船して9時45分に曇り空の下、大津港を出航しました。



オリエンテーションの後、滋賀県立大学の後藤直成先生から「びわ湖の話」を聞かせてもらいました。びわ湖の大きさや歴史、水の色が変わって見える理由、さらにびわ湖の透明度やプランクトンについて本日のテーマと関連付けながら小学生にも分かるようにやさしく話してもらいました。

先生のお話を聞いているうちに船は琵琶湖大橋をくぐり北湖へと進んでいました。先生の話が終わって透明度板の組み立てが始まりました。参加者一組にひとつずつ透明度板をつくってもらいます。説明図を見ながら、また保護者の方に手伝ってもらいながら作りました。部品をつなぐ「もやい結び」にてこずった組もありました。



全ての組の透明度板が出来上がった頃に船は北湖に停船しました。皆は後方デッキに出てめいめい透明度板を湖中に沈めて北湖の透明度を測定しました。観測地点の透明度は～6.5mでした。



透明度の測定が終わると後藤先生のアシスタントの人がプランクトン捕集ネットで北湖のプランクトンを採取してくれました。南湖のプランクトンは出航前に大津港で採取してくれていましたのでプランクトン観察のサンプルが揃いました。



後藤先生からサンプルの説明と顕微鏡観察の試料片の作り方を教えてもらいました。

いよいよプランクトンの観察です。児童一人一人に顕微鏡が用意されました。児童たちは説明図や図鑑のプランクトンの図と対照しながら、また後藤先生やアシスタントの人に熱心に質問しながら観察しました。動いているプランクトンを見て歓声を上げる児童もいました。自分で顕微鏡を使って十分にプランクトン観察ができる機会が持てて児童は満足そうでした。保護者の方も児童と交代して観察しておられました。



船は北湖を航行の途中、多景島や沖の白石、さらに「伊崎の棹飛び」で有名な伊崎寺の沖を通過してくれました。参加者で身近にこれらの名所を見た人はあまりいなかったのではないかと思います。



昼食を取り終わり13時過ぎに船は沖島に到着しました。琵琶湖汽船の中村さんから沖島の説明を受けた後、上陸して1時間あまり沖島を自由散策しました。参加者の皆さんは沖島の案内図を参考に思い思いに島内を回り、船に戻りました。



船に戻ってプランクトンネットの仕組みを説明してもらった後、沖島を14時35分に出航して南湖へと向かいました。南湖へ戻る途中、立命館大学の熊谷先生（びわ湖トラスト理事）から「ミクロの生態系」のビデオを見せてもらいびわ湖にいるプランクトンをさらに勉強しました。



当初は琵琶湖大橋を過ぎ南湖に入った辺りで一時停船し南湖の透明度測定を行う予定でしたが、風と波が出てきたので船長の判断で直接大津港へ戻り停泊してから透明度の測定を行いました。大津港での透明度は1.5mで予想通り北湖より低い値でした。参加者は自分で組み立てた透明度板を解体し、片付けて本日のプログラムを終了しました。



16時過ぎに megumi を下船し、皆で集合写真を撮り解散しました。



参加者からのアンケート結果では、回答された保護者16名の内15名から「とても良かった・良かった」(1名が「普通」)、また14名から「知人に勧めたいと思う」との回答を頂きました。児童の回答者20名の内18名から「とても良かった・良かった」(2名が「普通」との回答がありました。また児童20名の回答者全員が「また来たい」と答えてくれました。このところ天候の変化が激しく心配していましたが、雨に遭うこともなく無事イベントを終了することが出来ました。

最後に本行事を共催、助成頂いた公益財団法人平和堂財団に厚く御礼申し上げます。

(藤田理事 記)